

好きなものがちがっても

小 四

人けんって一体何だろう。わたしたちの市の人けん作文集の最初のページを読んだ。けれども、よく分からなかった。で「人けん」という言葉を国語辞典で調べてみた。そこには「人が人間らしく生きていくために当然もっている、生命、自由、平等などについてのけん利」と書いてあった。「当然」「自由」「平等」「けん利」……。むずかしい言葉がたくさんあって、頭の中が整理できなくなった。一つ一つの言葉を辞典で調べて、やっとなんとなく分かってきた。人けんとは、生まれてきた人は、みんな大切にされて、自分の思う通りに生きていくことがみ

とめられているということだと思った。わたしは、小さいころから好きなものがみんなとちがっていた。戦隊ヒーローが大好きで、ほいく園の友達と戦いごっこをしていた。好きな色は青とエメラルドグリーン。ヒラヒラの洋服はきらいで、ズボンばかりはいていた。でも、そのことを家族にひていされることはなかった。お父さんは、わたしの好きなヒーロー番組をたくさん録画して見せてくれたし、おばあちゃんは青いＴシャツを何まいも買ってくれた。

ほいく園の発表会するとき、男の子と女の子のそれぞれのグループに分かれてダンスをすることになった。わたしは、男の子がおどるダンスの『ガツチャマン』をどうしてもおどりたかったから、先生にたのんだ。すると先生は、

「おうちに帰って、お母さんと相談してきて。」

と言った。お母さんは、

「あなたの好きなほうをやっつけていいよ。」
と言ってくれた。わたしはとてもうれしくて発表会のダンスがよい思い出になった。

でも、いやな思いをしたこともある。ある日、同じクラスの子がおにごっこをしていたので、

「入れて。」

と言ったら、

「これは、プリキュアごっこだからだめ。」
と言われた。でも、どう見てもふつうのおにごっこにしか見えなかった。女の子たちは、わたしは、わたしがプリキュアを好きではないから、仲間に入れたくないんだなと思った。好きなものがちがうからという

理由で仲間はずれにされたのは初めてだったので、とてもびっくりにしたし、いやな気持ちになった。

わたしは、自分の好きなことやみんなとちがうところを受け入れてもらえることが多かったから、それが当たり前だと思っていた。しかし、もしかしたらちがいをみとめて仲よくすることはむずかしいことなのかもしれないと思った。作文を書くことになって、自分のことをふりかえって考えてみたけれど、自分のことをみとめてもらうとうれしいし、ひていされるといやな気持ちになるんだなと思った。

わたしは、みんなと仲よくするために、男女や好き、きらいは関係なく、ありのままを受け入れられる人になりたい。